

## 日本医学会分科会活動報告

一般社団法人 日本熱帯医学会  
理事長 金子修

### I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

#### a. 特に学術的に重要と考えられるもの

1. 年次大会の開催。とくに2017年に「グローバルヘルス合同大会2017（日本国際保健医療学会と日本渡航医学会との3学会合同大会）」、2020年に「グローバルヘルス合同大会2020大阪（日本国際保健医療学会と日本渡航医学会と国際臨床医学会の4学会合同大会）」と他学会との合同大会を開催し、学会の垣根を越えた交流を持ったこと。本学会とは異なる視点で国際的活動を行っている学会での発表を見聞することで、より多角的な視点で研究を行う力が涵養されると考える。
2. 本学会の英文機関誌「Tropical Medicine and Health」。2011年にはPubMedで検索されるようになっていたが、2016年に、それまでJ-Stageで発行していた英文機関紙「Tropical Medicine and Health」をBioMed Central社の雑誌として発行することとなり、2017年にはESCI (Emerging Sources Citation Index)に収載された。現在Springer Nature社のプラットフォームで論文の量質ともに著しい向上がみられ、引用可能な論文数は2019年には60報、2018-2019年の被引用数は220報、年間論文掲載数は2020年には100報を越えた。

#### b. 当該領域における国際的な役割

1. 年次大会および機関誌「Tropical Medicine and Health」を通じて、熱帯地を中心とした海外における医療、研究、教育のそれぞれの活動に資する学術的研究成果を国際的に発信した。
2. 日本熱帯医学会は国際熱帯医学連盟（International Federation for Tropical Medicine, IFTM）の分科会に登録され、拡大理事会に理事を継続的に輩出し、IFTM主催で4年に1回開催される「熱帯医学とマラリアの国際会議（International Congress of Tropical Medicine and Malaria, ICTMM）」の企画に携わった。2016年のオーストラリアでの開催時には、学会員から多数の演題が発表された。2020年のタイでの開催はCOVID-19の世界的流行のため延期されたが、多くの学会員の演題が登録された。
3. 東南アジア諸国連合（Association of Southeast Asian Nations, ASEAN）における熱帯医学

連盟との連携も密接に行い、毎年タイのバンコクで開催される国際学術集会 Joint International Tropical Medicine Meeting (JITMM)に、多くの学会員が参加発表した。

**c. 活動からもたらされる社会的な意義**

1. 日本熱帯医学会は 2017 年から一般社団法人化を果たし、責任ある社会的法人としての活動を展開した。
2. 熱帯病に対するよりよい診断法の開発・導入（フローサイトメトリー法の応用によるマalaria 診断機器の臨床試験や、LAMP 法の結核／マalaria／COVID-19 の診断にかかる臨床性能評価試験など）に学会員が積極的に関わり、産官学との協働により社会実装の達成に至った。

**d. 学会運営上留意している点**

1. 若手研究者の人材育成に努力し、毎年、若手研究者を対象とした奨励賞の選考と授与を行った。2018 年からは毎年、主に学部学生を対象とした学生夏合宿を企画し、2021 年には日本熱帯医学会学生部会 J-Trops を設立し、70 人余りが学生会員となった。
2. 男女共同参画委員会を学会内に作り、日本医学会と協働した。学会独自には、女性理事を積極的に登用するとともに、日本熱帯医学会女性賞を 2018 年に設立し、これまでに 4 名を表彰した。

**II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。**

1. 日本寄生虫学会と共同で、寄生虫による熱帯病に関するシンポジウムを相互乗り入れて開催し、学会員の知識の向上を図った。
2. フローサイトメトリー法によるマalaria 診断機器の感染症法での患者届け出基準変更要望書を、日本寄生虫学会（日本医学会分科会）と日本臨床寄生虫学会（非日本医学会分科会）と連名で厚労省へ提出し、2021 年に基準が変更された。